

スズメバチ刺傷によるショック症状を緩和

日本でも認可されているエピペンとアナヘン

武石雄市

蜂に刺されておきるショックを緩和する自己注射器。

■蜂に刺されたことがある■

夏から秋にかけて森林や草原で活動するオリエンテーリングの運営者、特に地図調査者、そして参加者は蜂の脅威にさらされた経験があるだろうと思っています。

アドベンチャーレーサーに限らず、学校行事や遠足など誰でも野外行動で蜂刺され危険は付きまといます。

怖いのは1度でも蜂に刺されたことがあると体内に抗体が残り、特にスズメバチの場合はアナフィラキシー・ショックが起きる確立が高く、処置が遅いと生命の危険にさらされるといわれています。

■携帯できる自己注射器■

昨年10月、白鷹山ロゲインで参加者がレース中3名がスズメバチと思われる蜂に刺されて救急車出動を要請した。特に1名は刺された箇所が多く、救急車の到着までショック症状の起きないことを祈って、駐在させた保健師が蜂毒吸引機を使い患部の毒を懸命に吸引措置した。

不幸中の幸いだったことは3名ともこれまで蜂刺傷の経験がなかったことである。

■注射器の国内普及状況■

アナフィラキシー症状を緩和するための自己注射器が、日本でも医師の処方により入手可能となりました。

欧米では呼吸困難などのショック症状の危険が予測されるアレルギー体質の人や、養蜂産業に携わる人はアドレナリン主剤のアナヘンやエピペンの救急キットを携帯しています。

認可が遅かった日本では2003年8月、蜂用のみ認可され森林作業従事者や土木工事従事者が漸く携帯するようになって来ましたが、いまだに広く普及しているわけではありません。理由は、刺されて受診する場合はともかく、医師の処方を受けて入手する場合でも保険適用外なので11,320円と高価なことがあげられます。

■自己注射器エピペンとは■

主成分はアドレナリンで、強心作用、血圧の上昇作用、気管支の拡張作用があり、アナフィラキシーの兆候や症状を感じたときに速やかに注射すると、ショック症状を軽減させる効果があります。

吐き気、発汗、めまい、じんま疹、ふるえなどの初期症状が見られた場合は、ショック症状が発現する前に速やかに注射します。

症状出現後30分以内(遅くとも60分以内)に注射すれば、死亡率を減少させる効果が期待できるそうです。

筆者は抗体検査の結果スズメバチに抗体価が高かったので購入しました。

写真で分かるように注射器は携帯キットになっていて、適正に使用しないと重大な事故につながる可能性があるため、練習用の空注射器も入っています。

筆者は、携帯ケースの中にこれまで持ち歩いていた毒吸引機をセットにして携帯しています。

■入手に当たっての受診■

野活指導者・運営者といえども常備の理由では入手できません。

国内の指定医が居る病院・医院で受診し、理由を説明し蜂の抗体検査をした検査結果で入手措置を講じてもらえます。

検査は、スズメバチ、あしなが蜂、ミツバチに対する抗体価です。

あくまでも個人用ですが、主催者が携行していることにより生命に関わる緊急事態に役立つと思います。

この情報がお役に立てば幸いです。



写真上が練習用注射器、下がエピペン0.3mgが入った自己注射器。



写真右側は比較のためコンパス3と蜂毒吸引機、左側がエピペン携帯キット。

(山形県オリエンテーリング協会 会長代行 武石雄市)